

青い海 つながる先には 青い旗

神奈川県横浜市 46 歳
真崎 美緒

《作品について》

リビエラグループは2022年にブルーフラッグを取得してから、3年間継続しています。ブルーフラッグは一回取得すれば更新されるものではなく、毎年厳しい基準をクリアしなければ継続する事は難しい制度です。その為に、毎日どのような事をすれば良いのか、どう動いたら良いのか、沢山の方々が話し合い、行動出来る方が実行して下さる。出来る事はそれぞれでも、皆が同じ方向を向く事の大切さを表しました。

好きなのは 平和を愛す 素敵な人

和歌山県和歌山市 33 歳
松木園 紗絵

《作品について》

性別や趣味によって好きな人やものが制限されない、そんな世界が素敵だし、そういう世界を愛する人こそ素敵な人だと思います。

仕事とは ダイパの向上 SDGs

神奈川県横浜市 38 歳
松倉 礼実

《作品について》

無駄をなくすのは形あるモノだけでなく、有限な時間の有効活用も大切だと思ったから。

食べ物を 大切にする いつまでも

神奈川県鎌倉市 小学5年
松崎 あかり

《作品について》

最近食品ロスが多く出ているし、地球温暖化で農作物も生産量が少なくなっている
ので将来も食べ物があって欲しいと思い考えました。食品ロスで食べ物を
大切にしていけないので「大切にする いつまでも」にしました。

フードロス 温暖化にも つながるよ

神奈川県海老名市 小学5年
松下 知生

《作品について》

温暖化をどうにかくいとめたいと思った。

嵐でも 無風もしんどい セーリング

神奈川県三浦郡葉山町 48 歳
松村 庸介

《作品について》

風が強すぎても弱すぎても(極端な気候)、ヨット大会開催時はレースが成立しない辛さ、自然には逆らえないことを表現した。

老舗とは サステナブルの 優等生

神奈川県藤沢市 73 歳
松本 崇雅

《作品について》

企業として歴史があるということは持続的な活動が最も有効に機能しているということだと思います。働き甲斐もあって長く続いているということでもあると思います。

差別なく 気にすることない 男女の差

神奈川県逗子市 小学5年
松本 千帆

《作品について》

動物も みんなと同じ 命もつ

神奈川県横浜市 小学4年
松本 雄磨

《作品について》

僕や動物が好きな人は、海や陸の動物の命を自分の命と同じように考えています。特に、ペットを飼っている人は、自分のパートナーや子どものように考えていて、それぞれの動物にも命があると考えています。人間は、動物なしでは、生きていけません。だからこそ、すべての動物に感謝をして食べたり、動物の命を粗末にする考えをしてはいけないと思っています。命は、一生にひとつだけです。だから、自分自身のことも大切にするのと同じように、動物のことも大切にしなければいけません。人間の都合で捨てられた動物を保護している心が優しい人もいます。でも、一方で、動物を感謝しないで殺したり、いじめたりする人のことを聞くと心が傷みます。世界中のみんなが動物に感謝して、命をいただくことを意識して欲しいです。そして、今ある自分の命にも感謝して過ごして欲しいです。

平等に まだまだ日本 ジェンジェンダー

神奈川県逗子市 小学5年
丸山 美晴

《作品について》

ごみひとつ みんなで拾えば 一億個

神奈川県藤沢市 50 歳
三浦 雅美

《作品について》

自分たちの暮らす街をきれいにしよう。

色、かたち 変わる水着や 見える虹

岩手県盛岡市 32 歳
三上 和奈

《作品について》

水着や制服が変わりつつあり、どんどんジェンダレスになる時代、自由に豊かにできる知恵をいろいろな場所にあてはめて生きづらい方々を救うために生きたい人が増えたら虹も見えるはずです。

なくしたい 散乱している 海のゴミ

神奈川県逗子市 小学5年
水落 晴大

《作品について》

船達が 大海原を 駆け抜ける

神奈川県逗子市 25 歳
溝井 空

《作品について》

私の業務は船を直すことです。船の艇分だけ、故障の数も多く、治さなければなりません。毎日、悪いところを直した船達が大海原を駆け抜けています。海の豊かさとは、海にゴミがなく、動物達が生態系を崩さずに生活をしている事も言えますが、海の上に船で賑わっていることも海の豊かさと考えます。海に船がなく、閑散としていたらそれは海の豊かさは守れていないと思います。海を好きになる人が増えたら海について意識する人が増えるのではないかと思います。(ゴミを海に捨てないや、マリンスポーツをしてみるといった様に)そんな豊かさを守るための提案も出来たらと。私も、豊かさを持って大海原を駆け抜けれるようになりたいという意味も込めています。

ゴミ拾い 未来の地球に 自己投資

神奈川県藤沢市 26 歳
溝口 七海

《作品について》

ゴミ拾いを続けることで自分の生活環境はもちろん、海や山などの自然にとっても改善されるためお金のかかることのない投資だと感じた。

メニュー決め 配る先決め 詰め放題

山梨県中央市 43 歳
葉袋 太一

《作品について》

少しでもたくさん、少しでも得をしたいと思うのが詰め放題。しかし、持て余したり、腐らせてしまっては詰め放題をする資格がないようにも思います。これで何を作ろうとか、親や兄弟に持っていこうなどと考えながら楽しめるといいですね。

使い捨て 減らして繋ぐ 次世代へ

神奈川県横浜市 59 歳
宮坂 隆幸

《作品について》

持続可能な未来へ強い意識をもって行動することが重要だと思います。使い捨ての文化が現代社会に大きな影響を与えていますが、限りある資源を無駄にしないようにして、次の世代へと繋いでいきたいです。

海にきた ごみが落ちてる 拾おうか

神奈川県逗子市 小学5年
宮坂 青波

《作品について》

香り立ち 見上げる空に 未来咲く

神奈川県逗子市 58 歳
宮崎 淑樹

《作品について》

甘い香りに惹かれて顔を上げると、朝の清々しい青空に犀の幹に咲く満開の金木犀。来年も 2030 年もその後も変わらずに香り続けてくれるように感じます。

人はみな 安心とはね 限らない

神奈川県横浜市 小学4年
宮崎 凜太郎

《作品について》

僕がこの川柳を作ろうと思ったのは、日本に住んでいる僕らはいつも安心して暮らしていますが、世界には戦争などで毎日不安に思いながら暮らしている人もいることを知ったからです。戦争や紛争で、自分の家族が殺されてしまっている映像をニュースで見ました。もし日本で戦争などが起こって、自分の家族が死んでしまうような場面があったら、ものすごく悲しい気持ちになります。きっとニュースで見るその映像の人たちも同じように家族や友達が大切だし、好きだと思うから、本当に辛いと思います。だから、世界中で戦争や紛争がなくなって欲しいという願いを込めてつくりました。

自然もね 人と同じだ 大切に

神奈川県横浜市 小学4年
三輪 飛雅

《作品について》

僕の川柳には、次の3つの思いが込められています。一つは、僕自身が、自然や生き物が好きで、世界のみんなにも自然や生き物を大切にして欲しいと思ったからです。二つ目は、自然が壊れてしまったら、今ある地球が成り立たないと思っているからです。そうすると、今生きている動物や人間も苦しい思いをしないといけなかったからです。三つ目は、僕のようにみんなにも自然や生き物を好きになって欲しいからです。僕は、猫を14匹飼っていて、自分が落ち込んでいる時には、猫が近づいて一緒に寝てくれて、心が温かくなります。他の動物たちにも同じような癒しがあって、人間も動物に助けられていることを感じる場合があります。だから、自分を大切にするのと同じように、生き物も大切にしていきたいと思いました。

豊かさは 軍手とトンダ ビーチクリーン

神奈川県横浜市 67 歳
村木 幸恵

《作品について》

「地道に日々清掃活動をすることで、心身ともに豊かな暮らしができるように」という願いを込めて。

ポイ捨ては 地元でしろよ 他県ナンバー

神奈川県三浦郡葉山町 69 歳
村田 和樹

《作品について》

貴方の地元ではまさかポイ捨てはしないだろう、という思い。

ママ友と 譲り譲られ 子供服

山梨県甲府市 57 歳
村田 一広

《作品について》

ママ友とお互いに不要になった子供服を譲ったり譲られたりして、地球にとって無駄のない生活をめざしています。

国同士 繋がりを持って 平等に

東京都練馬区 22 歳
室野 圭珠葉

《作品について》

世の中には、裕福な国と貧困な国の差が大きいと感じています。世界で見たときに、日本は恵まれているほうだと思いますが、日本よりもっと裕福な国、逆に日本よりかなり貧困な国様々あるかと思っています。その差を埋めることはなかなか難しいことだとは思いますが、少しでも平等な生活を送れるように想いを込め、この川柳を作成しました。また貧困による餓死を 1 人でも減らすために、まずは食事を残さないことや、無駄な水を使わない、必要な物は購入しないなど、私ができることから取り組んでまいります。

今着てる 服のタグには 姉の名が

神奈川県逗子市 小学5年
森 奏美

《作品について》

鳴き砂に ゴミ打ち寄せて 泣くカモメ

福岡県北九州市 63 歳
森尾 広志

《作品について》

鳴き砂は歩くとキュツと音がし、美しい砂浜にあります。ゴミは打ち寄せてきます。美しい海が人間によって汚されていることは悲しいことです。

節約と SDGs は コツコツと

東京都西東京市 31 歳
森田 夏未

《作品について》

買い物の時の有料袋やスタバカップの持ち込みなど今では環境保全につながる取り組みがいろいろな店でなされています。例えば有料袋の 3 円や 5 円でも毎回持参のマイバックを使えば年間約 1000 円～2000 円の節約にもなり、結果 SDGs に繋がります。節約も SDGs も小さなところからコツコツとやっていくことが大事なのだとおもい、このような作品にしました。こんな自分だけがやっているだけで影響しないだろうではなく、その小さな取り組みは結果的には大きいのだと自覚することが持続可能な社会を創り上げることができる取り組みなのだと思います。